

石巻専修大学

石巻専修大学ホームページ <https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/>

石巻専修大学 広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

最新の情報は大学HPで。

学生ら200人 地域盛り上げる 第100回 石巻川開き祭り

そろいの浴衣で通りを練り歩いた大漁踊り



石巻市の夏の風物詩「石巻川開き祭り」が、8月4日から6日まで開かれた。第100回開催となった今年は記念イベントなども行われ、大勢の人でにぎわった。本学からは学生や教職員延べ200人が参加し、久しぶりの行動制限のない夏を楽しんだ。

大きな声援を受けた大縄引き大会



祭りのフィナーレを飾る大漁踊りでは、そろいの浴衣を着た学生たちが、メイン通りを練り歩いた。若々しく楽しそうに舞う学生たちに、沿道から多くの声援が送られた。猪狩京太さん(理工1・宮城県仙台二華高)は「地域の方たちが笑顔

一つ一つ丁寧に流燈をつくる学生たち



の、全力で祭りを盛り上げた学生たちは充実の表情を見せていた。

石巻専修大学 広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

北上山沿いのゴミを拾うボランティアの学生



元気よく「こめぼこ」を販売する杉田ゼミ生



経営学部経営学科の杉田博ゼミと稲葉健太郎ゼミの学生20人が8月27日、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地「楽天モバイルパーク宮城」でフィールドワークを行った。

鶴田道也助教の授業を履修する学生らが制作した。その他にも多くの学生や教職員が祭りの準備やボランティア活動に汗を流した。4日は、震災犠牲者を追悼するために北上川に浮かべる流燈づくり

同球団が開催する地域活性化イベント「東北ろっけんまつり」に出店したのは、2017年度から宮城県水産高校、石巻北



調査を行う稲葉ゼミ生

高校と連携して、米粉入りかまぼこ「こめぼこ」の地域ブランド化に取り組む杉田ゼミ。当日は、石巻北高校の生徒とともに商品の魅力をアピール

外国人観光客の誘導にあたる梁翰宸さん(理工4)



7月30日に石巻港雲雀野中央埠頭で開催された、大型クルーズ船「パシフィックワールド号」寄港歓迎イベントに、人間学部人間文化学科の3年次生4人と本学外国人留学生8人がボランティアとして参加した。石巻(宮城県古川学園高) 西條結香さん(宮城県登米高)、阿部志保子さん(宮城県古川学園高)、小川結実さん(同)、木村千尋さん(宮城県桜坂高)の4人は国際交流への関心が高く、これまでもさまざまな活動に取り組んできた。

し、用意した130パック全てを売り切った。岡村健留さん(経営3・宮城県大河原商業高)は、「大學生と高校生が共同開発した商品であることを直接伝えることができて有意義だった」と話した。稲葉ゼミは、来場者を対象に「プロ野球観戦と余暇活動に関するアンケート」調査を行い、100人以上から回答を集めた。ゼミでは今後、調査結果を分析し、楽天野球団に報告する。

23年度 2件が新規採択

2023年度の科学研究費助成事業(科研費)に、石巻専修大学から2件が新規採択された。研究種目、氏名、研究課題名は次の通り。

研究種目	氏名	所属・職名	研究課題名
基礎研究(C)	丸岡 泰	経営学部 経営学 教授	大災害時の災害対応組織の協働形態の非営利セクター形成度をふまえた日米比較研究
	庄子 真岐	経営学部 経営学 教授	災害伝承施設の評価とその施設が観光まちづくりに果たす役割

2023石鳳祭
メインテーマ **新時代**
10/7(土)・8(日)

メインステージでは両日ともバンドライブを開催。7日にはスペシャルゲスト「EMPATHY」も登場する。ゼミナールによる模擬店や地場産品フェアなども。

早く答えてくれる方がいるとうれしく、励みになった。貴重な経験になった」と語った。

「食の新分野」をテーマにした水産加工研と合同研究会

ロケットについて講演した尾池学長



グループワークや意見交換が行われた。尾池研究室の学生も参加し、企業の方と積極的に意見を交わしていた。

水産加工関係事業者の発展を目指して活動する石巻地区水産加工研究会と、地域社会の諸課題解決に取り組む本学による合同研究会が7月27日に開かれた。産学官連携のきっかけづくりが主な目的で、今回は「食の新分野」をテーマに開催。尾池守学長による講演のほか、宇宙食、非常食、嚥下食、フ

さまざまな生物が飼育されているウェットラボ。左下はオープンキャンパスで見学する高校生



「海洋生物ラボ」完成

1号館に二つの海洋生物ラボが完成し、理工学部生物科学科の各研究室で活用されている。「海洋生物ウェットラボ」は、主に宮城県の沿岸域で採集した海洋生物の飼育などに用いる実験室で、教員や学生の水槽実験に使用。海洋生物ドライラボは、顕微鏡エリアと藻類培養エリアからなり、生物観察や試料分析を行う。これまで各研究室に分散されていた実験機能をラボに集約することで、安定した環境での飼育実験や共同研究が可能となった。